

「同じ数ずつ」のまとまりを見つけよう！

算数 第２学年
加賀市立錦城小学校

1 事例の概要

本校は昨年度まで「生き生きと学び合う子の育成」を研究主題に掲げ、国語科を中心にコミュニケーション能力の基礎・基本となる「話す力・聞く力」の育成に取り組んできた。その結果、少しずつではあるが「自分の言葉で」話そうとする児童がふえてきている。

今年度は、研究主題はそのまま残しつつ、副題を「活用力を高める算数科の授業づくりをめざして」とし、習得した知識や技能を次の学習や日常生活などの問題を解決する場面での活用力を育てるため、学習内容の系統性がよりはっきりしている算数科を中心に授業実践を積み上げていくことにした。

１学期に実施した算数についての意識調査では、「算数が好き」と答えた児童が８２％、さらに「算数の勉強がよくわかる」と答えた児童が６２％で、残り３８％の児童も「まあまあわかる」と答えており算数科に対する学習意欲が高いことがわかった。しかし「算数で習ったことを生活の中で使ったことがあるか」の問いでは、「あまりない」と答えた子が４８％と半数を占め、「使ったことがある」と答えた児童のほとんどが「買い物の場面で品物の値段をたし算した。」という経験だった。そこで「算数の学習は生活に活用されてこそそのよさが発揮されるもの」と考え、身近な体験から課題づくりをしたり、算数で学んだことが生活の中で活かされるような働きかけをしたりして児童の生活場面をより意識した授業づくりをめざし実践を積み上げていくことにした。

本単元では、九九に対する児童の興味・関心の高まりを利用しつつも、「１つ分の大きさ」の「幾つ分」というかけ算の意味を、実際の生活場面と対応させながらしっかりと理解させていきたいと考えた。そのために、問題提示を工夫したり、具体物や半具体物使った操作活動や絵や図や文章で表現する活動を多く取り入れたりしながら、学校全体の目標である活用力向上を図りたいと考えた。

A—１ 学校研究

2 実践内容

（１）単元の目標

乗法の意味について理解し、それを用いることができる。

（２）指導上の工夫点（視点）

① 単元計画の見直し

活用力を高めるための課題をどう位置付けていくかを意識しながら単元計画を作成した。単元計画の中に「本時の学習で活用する知識・技能」を書き出すことで、既習事項の活用を意識した授業の組み立てを考えるようにした。

② 課題提示の工夫

ア 導入の工夫

本時では「同じ数ずつ」のまとまりを「１つ分」とみる見方を大切にさせたいと考え、整列した人とばらばらの人の絵を見せながら「何人いるかな？」と問いかけるところから授業をスタートさせた。

イ 問題提示の工夫

- ・文章問題での題意を正確につかませるために、「**お**たずね、**す**数字（数量）、**ず**図、**し**式、**こ**答え」に分けて、一文一文をしっかりと読ませる工夫をしてきた。
- ・問題提示→具体物→半具体物→抽象化（式化）への思考の流れを意識した授業の組み立てをし、操作活動を入れながら考えさせた。

③ 表現力の育成

ア 「聞き上手・話し上手」を育てる取組

- ・ペア学習、グループ学習などの学習形態を工夫した。

イ 算数的表現力の育成

- ・「はじめに」「つぎに」「さいごに」などの順序を表わす言葉や、「そのわけは～だからです。」など、考えの根拠を示す言葉を意識的に使わせる取組をした。
- ・児童の思考の流れがわかるノート指導を工夫した。

④ 基礎学力定着のための日常的取組

ア チャレンジタイムの活用

イ 家庭学習習慣化の取組

ウ 算数的環境づくり

B—1 指導上の工夫 —実際の指導から—

B—2 児童のノート

3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	支援☆・評価◆（方法）
1. 遊園地の絵を見て 並び方を比べる。		☆図がかけない児童には、個別指導で一緒に図を かいて説明する。
2. 1台に「4人ずつ」をさがそう	飛行機は4人ずつ乗っているね。 ジェットコースターも4人ずつだ。	◆1台に同じ数ずつ乗っているものを、図をかいて 確かめようとする。（観察）
	図にかいてたしかめよう。	
3. 考え方を発表する。		
4. 「同じ数」ずつのものをを見つけよう	自転車は1台に2人ずつだ。 テーブルに6人ずつすわってるね。	☆見つけられない児童には、「2人ずつはないか。」 など、具体的な数字を伝え、考えさせる。 「1つ分の数」の意味を理解している。 （ワークシート）

C—1 指導案

C—2 本時のワークシート

4 成果と課題

（1）成果

- ・単元の導入時から「1つ分の大きさ（数）」にこだわって指導してきた結果、文章問題の読み取りやお話問題づくりの場面では、どの子も抵抗なく基準量である「1つ分」を意識して問題をとらえることができていた。
- ・学び合いの活動の前に、自分の考えに番号をつけながら順序よく書く作業を取り入れたことは、思考をまとめる活動として大変有効であった。そのことが自分の意見を発表する時の自信となり、児童は図や式を指し示しながら自分の書いた言葉を手がかりに意欲的に考えを発表することができた。
- ・意識的に生活場面に根ざした課題を提示していくことで、児童自ら生活の中から乗法が適用できる場面を意欲的に見つけ出すことができた。

（2）課題

- ・活用する既習の知識・技能等を指導計画の中に明記するだけでなく、授業の中のどの場面でどのように活用させるのか等、活用力をはぐくむための学習活動を具体的に考え実践を積み上げていかなければならない。
- ・児童の考えを深め、評価にも生かすことができるノート指導を工夫していく必要がある。